

相談してみませんか

薬物問題でお悩みの方へ

ご本人・
ご家族向け



このパンフレットを手にとってみませんか？
そして誰かに相談してみませんか？

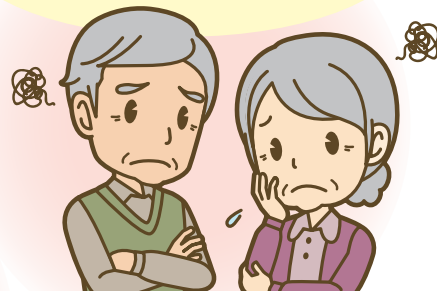
こんな方に読んでほしいパンフレットです！

薬物依存を理解して 回復のきっかけをつかもう！

なんで薬物を
やめられないんだろう？



家族（恋人、友達）に
薬物をやめてもらいたい



薬物の悩みを
誰かに相談したい



今度こそ
薬物をやめたい！

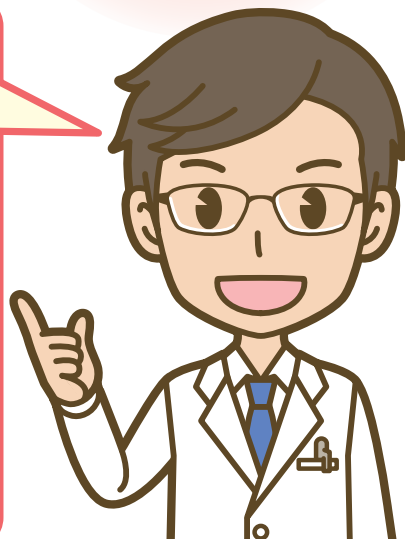


家族として
薬物依存からの回復を
助けたい



このパンフレットでは、
繰り返される薬物乱用
薬物乱用が引き起こす様々な問題
薬物依存症と依存からの回復
などについて解説し、
薬物依存に悩む方の手記
薬物依存からの回復を支える機関
を紹介しています。

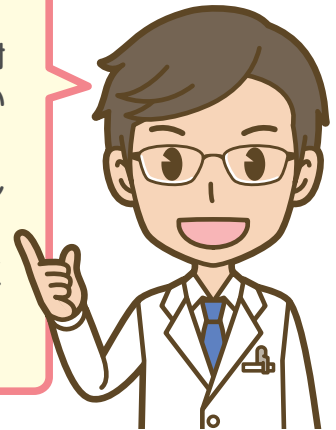
薬物依存から回復するためには、一人で悩まず、
まずは相談することが大切です！





薬物乱用・薬物依存・薬物中毒について

大麻や覚醒剤などの薬物には依存性があります。
 「一度だけ」の好奇心や遊びのつもりでも、薬物の「依存性」や「耐性」によって使用する薬物の量や回数が増え、「やめようと思っているのに、やり続けてしまう。」という状態におちいります。
 ここでは、薬物乱用から始まる薬物依存の悪循環について解説します。
 依存症について正しく理解し、早めに治療や支援につなげていくことが、依存症を予防し、また回復につながる第一歩となります。



薬物乱用

薬物乱用とは、決められたルール（法律や医学的ルール）を守らずに薬物を使うことです。
 大麻、覚醒剤などの違法薬物は1回使っただけでも「乱用」です。
 睡眠薬などの医薬品を医師などの指示した目的や用量を守らずに使う行為も「乱用」です。



薬物依存

薬物依存とは、「薬物乱用」の繰り返しの結果として生じた脳の慢性的な異常状態であり、薬物の使用を止めようと思っても、薬物を使いたい気持ちを自分でコントロールできずに薬物を乱用してしまう状態です。また、乱用を続けるうちに「耐性」がつき、同じ量では効かなくなり、無意識のうちに摂取量や回数が増えていきます。

慢性中毒

薬物乱用を繰り返した結果引き起こされる状態で、幻覚・幻聴や被害妄想など様々な精神症状が現れます。



[厚生労働省HP「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」](#)

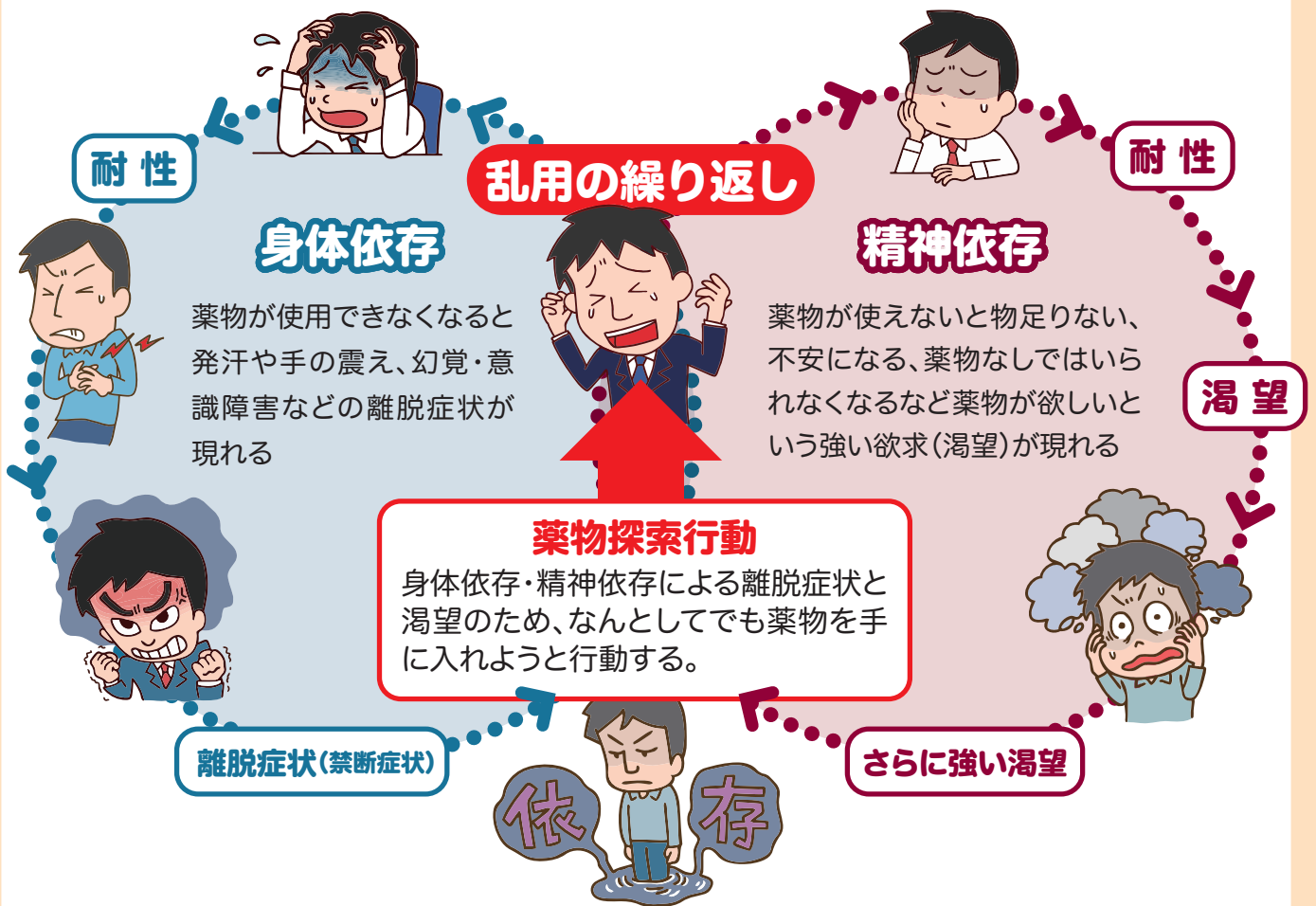
(参照)「第1章 薬物依存症を理解しましょう (PDF)」
 1 薬物乱用・薬物依存・薬物中毒

詳しい説明
 はこちら



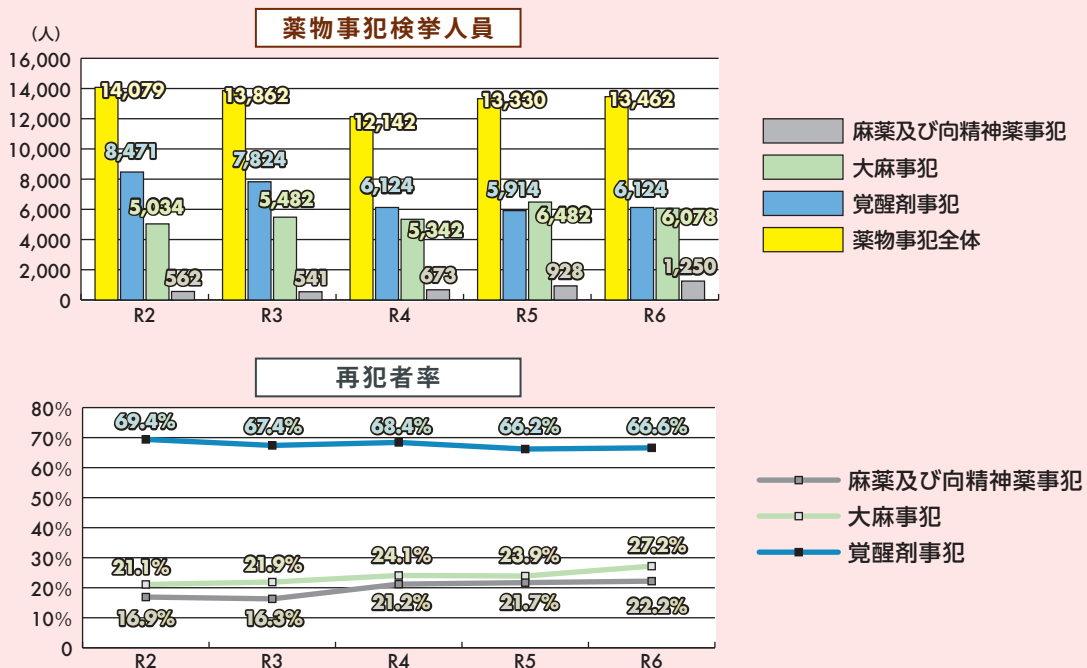


薬物依存と乱用の悪循環



薬物事犯の再犯者率

各薬物の依存性等から薬物事犯の再犯者率は高く、特に覚醒剤事犯の再犯者率は60%を超える割合で非常に高いほか、近年、大麻事犯や麻薬及び向精神薬事犯も20%を超えている。





薬物依存が引き起こす様々な問題について

薬物の乱用や依存は次のような問題をもたらします。ただ、こういった問題行動の多くは、本来のその人の性格によるものではなく、薬物依存の影響によるものですから、依存症の治療を受けることで少しずつ改善していきます。



家族からみた薬物依存症者の行動

薬物依存症者の行動	経験した家族の割合
感情の起伏が激しく、人が変わったようになった	93%
薬物を買うために嘘をついた	84%
薬物について尋ねると不機嫌になった	81%
意味不明な話をしたり行動がまとまらないことがあった	78%
家の中で薬物を使用した	76%
薬物使用の道具が出てきた	76%
薬物使用を見つけて開き直ったことがある	69%
薬物を使って大声を出したり暴れたりした	68%
薬物が原因で仕事を解雇された	68%
薬物が原因で身体的問題が起き、受診した	67%
本人が作った借金の督促が来たことがある	67%
薬物を使って暴力を振るうことがあった	61%

出典：厚生労働省「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」（一部引用）



厚生労働省HP「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」

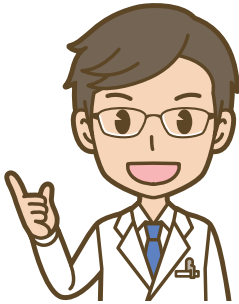
(参照)「第1章 薬物依存症を理解しましょう (PDF)」
2 薬物依存症が生み出す様々な問題

詳しい説明
はこちら





薬物依存症の進行について



ちょっとした好奇心や一度だけと思って薬物を使い始めても、依存症は見えないところで少しずつ進行していきます。

薬物依存症の進行の経過

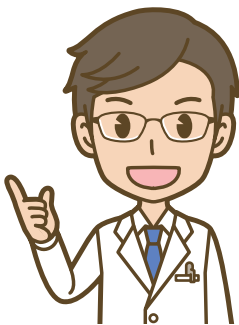
薬物乱用から 薬物依存へ

薬物乱用を繰り返すうちに少しずつ依存が形成され、薬物の使用を自分でコントロールできなくなっていきます。その結果、薬物乱用の頻度がどんどん高くなっていきます。

薬物欲しさに借金や犯罪に手を出したり、薬物使用の影響から家庭不和におちいるなど二次的な問題が深刻化するとともに、乱用者本人は、何が何でも薬物を手に入れて使うという生活を繰り返し、薬物への依存度が高くなっていきます。

薬物依存から 慢性中毒へ

慢性中毒になると、幻覚や妄想などの精神病の症状が現れてきます。「誰かにつけられている」「警察に見張られている」などの妄想や「みんなが自分の悪口を言っている」「“死ぬ”という声が聞こえる」などの幻聴が聞こえるようになります。



幻覚や妄想は薬物乱用を中止し、適切な医学的処置を受けると1か月から3か月以内に治まることが多いです。しかし、症状が治まったとしても依存症が消えたわけではありません。薬物依存がある限り、いつでも薬物の再乱用が起きる可能性があります。ですから、薬物依存症自体を治療することが重要になってくるのです。



厚生労働省HP「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」

(参照)「第1章 薬物依存症を理解しましょう (PDF)」
3 薬物依存症の進行と回復の過程

詳しい説明
はこちら

